

令和2年度 学校評価書

雄琴小学校

評価の基準 ( 3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった )

項目	小項目	自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
		小項目 評定	項目 評定	現況	項目 評定	意見・提言等	
主体的・対話的で深い学び	1 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	2	2	○コロナの中でも、子ども達は頑張ったとおもう。こちらの意図することにも耳をかたむけていた。コロナがあってもなくても無理をしないので進めていくのいいかと思う。 ○スピーチを継続してやることで、子どもたちに話す力が付いた。 ○授業でアドバイスをしあうことで進んで取り組めるようになった。	2	・児童に付けたい力がたくさんある。 ・コロナで取りやめたものについて再度見直しを行い、継続させるべきか、この際整理をするべきか、今の雄琴小学校の児童に必要な取組を精選する時期と考えてほしい。	・日頃から、気持ちを伝えたり、聞いて相手が何が言いたいかわかる力が必要である。 ・引き続き可能な範囲で活動に取り組みたい。 ・何か一つのことを協力して作ったり、やり違えたりする経験を積み上げていく必要があると思う。 ・聞く姿勢などきちんとするとほどのようなことか知らせるように、視覚に訴えるものを掲示する。 (シンプルなもの、イラストなど)
	2 協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善	2	2	▲コロナ禍における活動の制限により、対話的な活動がまったくできていない。休み時間等の子ども同士のトラブルが多かった。原因として、意見の食い違いや誤解によるものがほとんどであった。 ▲異学年との交流がこの状況で取りづらかったがために、縦のつながりが持てなかった。 ▲少人数での交流はできなかったのが今後どのように改善していくのか考えないといけない。	2		
	3 主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修会	2	2		2		
道徳教育の充実	4 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	2	2	○毎週計画的に道徳科を行うことで、さまざまな価値項目を学習することができた。継続して取り組むことで、次第に生活との結びつきを感じながら学習できた。 ○道徳の時間に加え、普段の行動を振り返る機会を多く設けることによって、いじめなどの未然防止に努めた。 ○教材の中だけの話に終わらず、自分のこととして考えられる子がいた。	2	・校外学習で公共の交通機関やバスを頻繁に使用できない状態であるなら、昨年度から見直しを行っている地域に目を向けるのは良いこと。地元を知る子、誇りに思える子を育ててほしい。	・身近に感じられる資料や話題を考えていく必要がある。 ・ワークについて、大津市が使用している教科書会社以外の物についても検討していく必要がある。 ・道徳科の資料を各学年で作成し保管する。
	5 道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流	2	2	▲資料の開発や研究会には参加することができなかった。 ▲教科書に縛られることなく、他の教材の研究をしていく必要がある。	2		
	6 保護者等への道徳科の授業公開	2	2	▲毎時間、同じ授業形態となるため、工夫が必要であると思う。どのような授業形態があるか知りたい。	2		
体力づくり	7 たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	2	2	○休校明けは、人との距離を気にしていたようだが、学校生活に慣れてくると、休み時間は元気に運動場で遊んでいた。 ○スーパートライや雄琴チャレンジを設定することで運動に取り組む子が増えた。 ○自分の記録に挑戦できるように授業を組み立てられた。 ○おごとスーパートライの取り組みでは、掲示物があることで子どもの励みになっていた。	2	・楽しみながら体を動かすことで、自然と体力向上、健康増進が図られることは良いことである。季節に応じた取組を行うようにする。 ・個人で取り組める種目を子どもたちにたくさん紹介してほしい。	・手で体を支える、足でしっかり地面を踏みしめるなど基本的な運動能力は、足りないような感じを受ける。冬期の縄跳び同様、体力をつけることを意識させたい。 ・制約がある中で、子どもたちの体力は確実に落ちているだろう。それを今後どのように元に戻していくかを考えていきたい。 ・友達と一緒に取り組み、高め合う場面を設定する。 ・体育の学習の準備運動としてEXダンスだけではなく、馬跳びや手押し車、いろいろダッシュなどをどの学年も取り組むよう計画する。
	8 体力づくりを推進する運動実践	2	2	▲できることが限られているため、幅広く運動要素を取り入れることができなかった。 ▲コロナのため、学年で合同体育を行う時間が少なかった。 ▲単純な、ケガが多い。不注意のケガも多い。 ▲運動の苦手な児童に対する支援や意欲を持たせる工夫を考えるべきだった。	2		
	9 体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	3	2		2		
指導改善 (組織的・計画的)	10 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	2	2	○学習アシスタントの方に来ていただき、とても助かった。人手があると環境も充実する。 ○ステップアップの時間やTTの時間があつたときに安心して学習に取り組める子がいた。 ○学年で各クラスをまわることで、学年全体を把握することができた。	2	・公民館事業では引き続き「おごとキッズ作戦会議(寺子屋)」を開催している。コロナの影響で参加児童は減少傾向にあるが、継続的に参加している児童もいる。居場所づくりの一環として地域の事業も活用してほしい。	・多様なレベルの問題を用意し、子どもたちが意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・ステップアップタイムの時間を見直し、全校で取り組む内容を統一する。
	11 教職員の指導力及び組織的な教育力の向上	2	2	▲担任だけでは補充学習ができなかった。 ▲学習への意欲が低く、興味がないこと、嫌いなことはしないという思いを少しでも改善できるように努めてはいるが、なかなか難しい。 ▲学習する姿勢や積み上げができていない。	2		
	12 働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2	2		2		

育ちと学びを支える連携							
① 家庭・地域との連携	13	保護者の子育てに対する積極的な支援	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○雄琴っ子見守り隊の方々は、消毒だけでなく、子どもたちにも温かく関わってくださった。子どもたちの安心につながり、朝のスタートがスムーズにむかえられた。</li> <li>○週案の配布によって、多くの保護者に時間割や準備物についての理解を得ることができた。</li> <li>○あゆみが2学期制になり、個別懇談会が11月になったことで個別の指導計画の話し合いを一緒にできてよかった。</li> <li>○警察、消防、学区の防災士と連携して実施できた。地域の行事ともリンクさせられると良い。</li> </ul> <p>▲地域のバトロールのあり方を考える必要があると思う。</p> <p>▲保護者への教師の勤務時間の周知を徹底してほしい。個別懇談会等で勤務時間外の時間を指定されることがある。</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横断歩道手前のストップマークの設置は、子ども安全リーダーの協力を得て完了することができた。</li> <li>・児童には登下校を含め、下校後も交通安全に注意するよう学校だけでなく地域からも声をかけていきたい。</li> <li>・地域の者が玄関先で下校する児童の様子を見守る簡単な活動を始めることはできないか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き週案を配布し、保護者への理解を図る。</li> <li>・個別懇談会の時間は勤務時間内とする。</li> <li>・地域人材の活用のため、どんな方がおられるか、どんな協力をしていたりできるかなどがわかるリストがあるとよい。</li> </ul>
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	2				
	15	防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり	2				
② 保幼小中の連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業		<ul style="list-style-type: none"> <li>▲コロナ禍により、枠組みを超えた研究会を昨年ほど充実させることができなかった</li> <li>▲小中、お互いの授業や生活についてわからないことが多く、中学進学に向けて子どもや保護者に適切に話をすることが難しかった。</li> <li>▲幼稚園がなくなった影響は大きい。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雄琴の子どもたちが坂本幼稚園に通園している。可能な範囲で交流を計画してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により、校種を超えた研究会などが開催されなかった。そのため、特になし。</li> <li>・特別支援学級で小中の交流を行う。</li> </ul>
	17	校種間の授業公開や合同研修会	1				
	18	保幼小の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究	2				
組織的体制の充実							
① 生徒指導体制の充実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○組織対応ができた。</li> <li>○報連相の徹底意識や、複数の教員による聞き取りを行うことができた。</li> <li>○大きな事案はすぐに相談し、組織的な対応をすることができた。</li> </ul> <p>▲人手不足によって人員が偏り、他学年への影響が出るなどの懸念があった。</p> <p>▲報連相カードにどの程度のことを書けばよいのかわかりにくい。</p> <p>▲不登校の児童に関して、もっと早期に対応すべきだった。</p> <p>▲情報の共有ができていない部分では協力やサポートをどのようにしていいかわからなかった。</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童から発信できることを増やし、学校・家庭・地域で生徒指導や、安心安全な町づくりをすすめていく気運を高める。</li> <li>・友達をきつく注意する子は、いじめっ子と判断されやすいが、そういう子は実は正義感の強い子かもしれない。いろんな目で見ていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人員の増加が必要。</li> <li>・靴箱および傘立ての記名をなくす。1年生とたんぼほのみ名前シールを貼り、あとの学年は名簿番号シールを貼る(いたずら防止)。</li> <li>・何か問題が起こったとき、相談する前にまずは自分がどのような対応をするか、どうしたいかなど考えることも大事だと思う。</li> <li>・各学級の1週間の出来事を全て報告する仕組みを作ってはどうか。</li> <li>・職員会議や打ち合わせの時間に、子どもを語る時間を少しとり、全体で知っておいた方がよい事案について共通理解を図る。</li> <li>・打ち合わせなどで生徒指導上の問題等を共有できると良い。</li> </ul>
	20	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進	2				
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	2				
② 特別支援教育の充実	22	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者に教育相談を活用してもらうことで、第3者からのアドバイスも受けられることができ、担任、保護者、スクールカウンセラー、教育相談担当教員とのつながりを持つことができた。</li> <li>○学校生活支援員や特別支援コーディネーターとの連携によって、細かい支援をすることができた。</li> <li>○個別の指導計画をもとに、個に応じた指導を心がけることができた。</li> </ul> <p>▲人員不足により、子どもへの適切な支援が難しい場合があった。</p> <p>▲個別の指導計画を作成しているが、スクールカウンセラーや子ども発達相談センター等につなげる手段になっていない。</p> <p>▲スクールカウンセラーとの連携をさらに深める必要がある。</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との面談は継続して行い、新しい教育課程に準じたものに更新していくこと。</li> <li>・これまで同様、子どもたちには丁寧に関わるようにしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との面談は継続して行い、新しい教育課程や今年度見直しを行った内容に準じて更新していくこと。</li> <li>・スクールカウンセラーのさらなる活用を行っていく。気になる児童が気軽に相談できるようにする。</li> </ul>
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	2				
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	2				